



岩手の底チカラ

支援企業紹介

岩手県二戸市

株式会社リード

Power of business human in Iwate

市場のニーズを見極め、使用者からの要望を商品の魅力に転換する発想力と、行動力

加工製造・販売の提携企業、(株)飯島産業岩手工場のスタッフと戸泉社長。飯島産業の飯島専務(写真右から3番目)も共に、試作品の制作や販路開拓にあたってきた。

岩手県二戸市の株式会社リードが企画・販売を行う「ほっと安心帽」。販売開始からわずか2か月で、幼稚園での採用や通信販売の取扱開始など話題を集めている。幅広い発想とマーケティング、性能を追求する姿勢がヒット商品を生み出す鍵だった。

安全を守りながら、日常の暮らしの中で使える「ほっと安心帽」

従来、安全を守る帽子としては、工事現場などで使用されるヘルメットや、介護用のヘッドギア、防災ずきんなどが知られている。これらの用途別・機能重視の帽子は、ある特定の場面での使用が想定されている。そのため、デザイン性が低かったり価格が高かったりと、日用品としての帽子とは異なる市場で販路を展開してきた。

このような機能重視の帽子の「安全を守る」という特長を持ちながら、デザインや価格を日常生活で使用できるものに限りなく近付けた商品が、株式会社リードの「ほっと安心帽」である。

使う側の要望やニーズを見極め、努力を怠らない商品開発を展開

「商品開発をしていく中で、ヒット商品になる要素を見つけることは難しい。しかし、ヒットしない要素を一つひとつ削ることで、

売れる商品に近付けることはできる」。2007年の会社設立当初、「ほっと安心帽」の試作品をもって臨んだ東京の展示会を振り返り、戸泉社長はこう語る。日常使える帽子に安全性という付加価値を付ける、この着眼点には多くの賞賛が寄せられた一方で、重さや通気性、デザインなどに関して「果たして実用的か？」との疑問も投げかけられた。そこから戸泉社長の試行錯誤が始まった。安全性を保ったまま、軽くて通気性に長け、デザインを損なわない素材を探しては、実験や試作を重ねた。はじめはゴルフ場のキャディ帽程度の衝撃吸収性を目指していたが、実験を繰り返すうちに、独自の3層構造により外部からの衝撃を布製帽子の20分の1に抑え、キャディ帽をも超える衝撃吸収性を実現した。

通気性の面では提携企業である(株)飯島産業の協力も得ながら試作を繰り返し、生地の継ぎ目にメッシュ素材を採用することで解決に至った。この技術により特許を出願し、オリジナリティを保つ努力も忘れていない。

今月の表紙

株式会社リードの戸泉社長と素材加工を請負う「二戸たんぼほ」のスタッフ。「一つひとつの作業が細かい上に手間もかかる、しかしながら真摯に取り組んで下さるんですよ」と戸泉社長。施設のスタッフも「この不景気の中でご縁があったことは、嬉しい限りですね」と語っていた。

私の仕事は知恵を絞ることです、と戸泉社長は語る。当初は介護や防災用の帽子を想定していた「ほっと安心帽」だが、現在は別のニーズに向けた商品開発に力を入れている。小学生や幼稚園児向けの黄色い帽子や、子ども用の野球キャップなどがその一例。従来、普通の布製帽子が大半を占めていた市場に、「ほっと安心帽」を送り込む。子どもの安全を願う親の気持ちをニーズと捉え、使用する子どもや購入する親の立場で多面的にマーケティングを展開した。どこにニーズがあり、どのような商品を、どうやって販売するかを考えることや、独自性を守る意匠登録や特許出願もマーケティングの一環だという。

積極的に行動し、センターの支援のもとさらなる進化を

積極的に行動を起こしているところには有益な情報も集まってくるといい、戸泉社長はこれを「万有引力の法則」と呼ぶ。「考えているだけでは周りしか見えないかもしれない、けれどもそこから1歩進むことで新たな展開が見えてくる」。衝撃吸収素材の加工についても、以前つながりのあった二戸市の障がい者活動支援センター「二戸たんぼぼ」に、自ら出向いて発注を行った。

創業当初から進み続けた今、衝撃吸収とい



株式会社リード

【代表取締役】戸泉秀明
【所在地】二戸市米沢字家ノ上39-1
【電話】0195-23-5526
【URL】<http://www.hot-anshin.com/>

代表取締役 戸泉 秀明

1956年東京都墨田区生まれ。学習院大学経済学部卒。HOYA（株）勤務の後、岩手県に移住。縫製会社経営などを経て2007年に株式会社リード設立。2009年10月岩手県発明くふう展にて東北経済産業局長賞受賞、同年11月いわてビジネスプラングランプリ受賞。「ほっと安心帽」は来年度、二戸市の新入生に配布される予定である。

う機能を高めつつ、重さや衛生面にも改良を加えた新たな素材を追究すべく、今後は東北大学との共同研究を行う予定になっている。

産業振興センターとは、研修などを通じて創業以前からつながりがあった。専門家派遣の際に「岩手県発明くふう展」や「いわてビジネスプラングランプリ」への出場をアドバイスされ、いずれも最高賞の栄冠に輝いた。使う人の立場に立った商品開発が高く評価された結果だった。「たくさん行動を起こせば失敗も多くなる。しかし、産業振興センターの方々をはじめ周囲が、方向性は間違っていないと推してくれたことを信じてやってきた」。今後もさらなる進化を重ねるであろう株式会社リード。「ほっと安心帽」が広く採用され、子どものより高度な安全が守られる日も近いかもしれない。

< P.3 写真 >

1	4	5
2	3	6

1. 地域活動支援センター「二戸たんぼぼ」では、5名ほどのスタッフが素材加工の作業を行っている
2. 「ほっと安心帽」を採用している二戸市内の幼稚園
3. 色・形・サイズともにバリエーション豊富な商品展開の「ほっと安心帽」
4. 帽子のサイズや使用部位に合わせ、一つひとつ丁寧に型が取られていく
5. 加工作業のもととなる帽子型は、戸泉社長いわく「虎の巻」
6. (株) 飯島産業では、縫製加工を担当。大企業のユニフォームなども手掛けるこの工場で、「ほっと安心帽」が製造されている

